

健康登山50: 周辺の山23 (金勝アルプス 竜王山 鶏冠山)

コース	桐生辻登山口 1.6km/44 分岐 1.2km/42 白石峰 0.7km/17 竜王山 0.7km/15 白石峰 1.6m/32 稜線鞍部 0.5/24 鶏冠山 0.5km/15 稜線鞍部 0.7km/15 落ヶ滝 2.0km/40 上桐生バス停		
水平距離	9.5km	断面図 縦軸：高度m 横軸：距離km	
水平換算距離	12.1km		
累計高低差	登り609m、下り649m		
標準歩行時間	4:03		
実績歩行時間	5:44		



山行報告

山行日 2009・9・3(金) 天候 曇り 参加者 6名

石山駅8:40 桐生辻登山口9:27 分岐10:15 狛坂磨崖仏10:35 白石峰11:21 竜王山11:52~12:45 白石峰13:02 天狗岩13:34 稜線鞍部14:22 鶏冠山14:57 稜線鞍部15:25 落ヶ滝16:03 上桐生バス停16:41 草津駅17:07

記録

周辺の山は10ヶ月ぶりとなる。金勝アルプスは展望の山で適度に变化があり面白い山だった。桐生辻から登った以外はよく知られたハイキングコースである。

石山駅から信楽行のバスに乗り桐生辻で下車。ハイキング地図では桐生辻林道 茶仏道 分岐が案内されているが林道は工事で閉鎖されていて狛坂谷沿いの道を登ることになる。

50分ほど歩くと白石峰へ向う狛坂道と上桐生へ行く南谷林道の分岐に着く。分岐からは湖南アルプスらしい露岩の多い道になり狛坂寺跡の石垣が見えると、その上が狛坂磨崖仏である。国見岩の前を通り重ね岩を過ぎると直登道と合流し、間もなく白石峰に着く。

小休止の後、竜王山まで登り昼食をした。午後は白石峰まで戻り、展望のよい稜線歩きを楽しんだ。天狗岩では全員が頂上まで登り360度の景色を眺めながら至福のひとつときを過ごした。琵琶湖越しに比良連山の稜線がぼんやり確認できた。

天狗岩から稜線鞍部までは小さなアップダウンがあり長く感じた。鞍部から鶏冠山まで往復した。鶏冠山の山頂付近から栗東のトレーニングセンターが眼下に見え、特徴のある三上山もよく見えた。鞍部までは部分的に急坂があるので慎重に下った。

鞍部から落ヶ滝へ下る道もザレ場や岩場があるが要所にはロープがあり安心して歩けた。雨のときは歩きにくい湿地帯を抜けてしばらく下ると落ヶ滝の標識があり、近くなので見に行った。水量が少ないので迫力はなかったが段差は20mくらいありそうに思えた。

落ヶ滝からすぐ下、左岸から右岸に渡った地点で鶏冠山からの稜線道と合流する。ここを過ぎると遊歩道にでる。その後は遊歩道を歩いて上桐生バス停に出た。タイミングよくバスが来たので草津駅17:13発で京都へ帰った。

金勝アルプスは随所にコールポイントがあり、道も整備が行き届いている。

周辺の山（金勝アルプス 竜王山 鶏冠山）



桐生辻登山口  
9:27



分岐の標識  
10:15



狛坂磨崖仏  
10:35



竜王山山頂  
11:56



白石峰  
13:01



天狗岩頂上で  
13:33



鶏冠山から三上  
山とトレセン  
15:09



下山道にて  
15:41



落ヶ滝  
16:03



遊歩道の案内板  
16:30

名所・旧跡ミニガイド（周辺の山：金勝アルプス 竜王山 鶏冠山）

参考資料、京都滋賀南部の山、京滋の山ベストハイク、HP他より

- ◎ 金勝<sup>こんぜ</sup>アルプス：田上山とともに、巨岩奇岩群に富んだ湖南アルプスの一つで、「東の湖南アルプス」ともいわれています。  
（「西」は太神山、矢筈、笹間、堂山など）  
山頂に『良弁』が開基の金勝寺<sup>こんしやうじ</sup>があり、平安時代初期には、僧「願安<sup>がんあん</sup>」によって、二十数余の別院が全山に広がって天台宗教が栄えた霊場だったそうです。  
【良弁<sup>ろうべん</sup>】（朗弁）689～774、東大寺の開山。石山寺造営に尽力し、紫香樂宮遷都にも関与。  
2歳のとき、近江の国で母が目を離した隙に驚にさらわれ、奈良二月堂の杉の木に引っ掛かっているのを助けられ、僧として育てられた奈良時代の高僧。「良弁杉」として歌舞伎、浄瑠璃などで種々演目されている。
- ◎ 狛坂摩崖仏：高さ7m、幅3mの花崗岩に阿弥陀三尊(貞観時代 859～77)が刻まれ、他に十二体の仏像もある。渡来人系の影響を残す史跡で往時の仏教隆盛をしのばせます。
- ◎ 狛坂寺跡：金勝寺に安置されている「金銅の観音像」は、壇林皇后(嵯峨天皇の皇后)に狛の長者の娘が献上し、これを金勝寺の僧『願安』に下賜されたが、女人結界の霊地のため、女人の参拝が許されないので、ここ狛坂に金勝寺の別院を建て一寺を建立したのが狛坂寺の創立と伝えられている。
- ◎ 国見岩：アルプス縦走路にあり、耳岩、天狗岩、鶏冠山、三上山、琵琶湖が望める。
- ◎ 重ね岩：鏡餅のような巨岩を二つ重ねた岩。岩肌にかすかに線彫りの仏像があるらしいが風化してよく見えない。室町期頃の阿弥陀三尊と地藏尊といわれる。
- ◎ 白石峰：北峰縦走路と狛坂道線と茶沸観音道線の主要合流地点(交差点)になっている。
- ◎ 茶沸<sup>ちやわかし</sup>観音：白石峰から竜王山へ向かう左(北)側にアーチ型の石塔窟(石龕<sup>せきがん</sup>)に彫られた円光背のある小さな立像(50cm)。実際は釈迦如来で狛坂摩崖仏と同時期に彫られたものといわれます。
- ◎ 竜王山：604,7m 4等三角点。雨乞いの八大竜王を祀る小社がある。  
三上山、阿星山が見え、目の前に金勝山(こんぜやま)が見える。東/西湖南アルプスの最高峰。

- ◎ **金勝山** こんぜやま : 612m三角点なし。山頂近くの金勝寺まで車道があり山も平凡、現在は登山対象に乏しい山。この南に三角点ピーク△566.8mがあり、点名は「金勝山」です。
  
- ◎ **耳岩** : ザックを置いて西側山腹の鎖場を降りて散策すると、恐竜の背びれのような風化巨岩、伎楽面のような大顔面石など奇岩群がみられる。  
このまま下れば水晶谷(地形に注意)で、上桐生へ通じる南谷林道への近道。
  
- ◎ **天狗岩** : 大きな角を持った様な牛の形に似ているので「牛の背岩」とも呼ばれている、おむすびのような巨岩。  
鉄柵で伝い歩きして岩の上に出られる。琵琶湖方面の眺望はすばらしい。
  
- ◎ **鶏冠山** けいかんざん : △490.9m。山頂付近の形が鶏冠とさかに似ていることから名が付いた。  
『とさか山』と呼んでもおかしくない。  
山麓の桐生町の古老クラブの方の話では、俗名を「狛坂山」というとか。  
干支に因んだ山で酉年に多くの登山者がある。
  
- ◎ **落ヶ滝** : 高さ約 15m一枚の花崗岩盤から落ちる瀑布。寄り道して滝見の価値あり。
  
- ◎ **オランダ堰堤** : 明治 2 年オランダ人技師ヨハネス・デレーケが行いヨーロッパ流の砂防工事技術が導入された砂防ダム。堂山にもデレーケ指導の鎧ダム堰堤がある。
  
- ◎ **逆さ観音** : 巨岩に阿弥陀三尊の摩崖仏が彫られているが頭部が下で逆さに彫られている。ダム用石を採掘した際、背後が削り取られて転倒し、以後そのままにしてある。地震で崩れ落ちた説もある。鎌倉期のもので弥陀浄土を表しているそうです。
  
- ◎ **金勝** : 金勝の地名は、昔、「銅の採掘」や、「青銅を細工」する**金勝族**(きんしょう族)という技能集団が居たところから名付けられた。奈良大仏の建立に多くの金勝族(渡来系集団)が活躍した。この頭目が『良弁』で百済系渡来人の後裔(こうえい)ともいわれる。  
「勝」はスグリ(村主/村首)の転化で古代朝鮮の村長のこと。『こんぜ』の呼称由来は金青(コンジョウ/コンゼともいう)即ち銅を出せる山。/又は扱う集団。  
「続日本紀に文武天皇(子は聖武天皇)元年近江国をして**金青**献ず」とある。  
『良弁』(朗弁)の一名から、即ち良弁建立の東大寺の前身、**金鐘寺**(金熟寺こんしゅうじ/金鷲寺こんしゅうじ)また別の呼び名を、**金肅菩薩**また**金勝**という。  
「金勝」は金(キム)性と鉞物をダブらせたものだろうといわれている。